

## 平成 26 年度の発掘調査について

平成 26 年度に行われている発掘調査について随時報告していきます。

### 2 月 24 日更新 引地上切 C 遺跡の 2 面目の調査が終了しました。

調査研究課の尾崎です。

引地上切 C 遺跡の調査は、1 月 28 日に 2 面目の空撮を行い、翌 29 日の補足調査ですべて完了しました（写真 1）。

1 面は中世から近世の遺構でしたが、その下層である 2 面には、平安時代を中心とする古代の遺構が広がっていると見られていました。北東のなだらかな斜面になっている部分について、黒色土の下層の黄色い土を検出面として掘削作業を進めたところ、灰輪陶器や土師器の破片等、平安時代を中心とする古代の遺物が出土しました。焼土や炭化物は確認されたものの、浅い溝状の遺構以外は明確に遺構と思われるものは検出されませんでした。

また、調査区域の南の方に、1 面調査時に石組みの井戸が検出されていました。これを、2 面調査後に断ち割って調査したところ、花崗岩を積上げて造られた、深さ 120 センチメートル程の井戸と確認されました（写真 2）。石組みの井戸の埋土からは、赤もの（※）と呼ばれる近世の常滑の甕の破片が出土し、石組みの石を外すと、その下には、より以前に手掘りの井戸が存在していたこともわかりました。長い間、ここで水を利用しながら、人々が活動してきたようです。

今年度の下山地区での調査は 2 月ですべて終了し、現在、遺物や記録の整理を行っています（写真 3）。

※赤もの：常滑焼のうち、低火度で焼く素焼き質の軟質な焼き物。赤い色をしていることから「赤もの」と呼ばれ、高温でよく焼き締まった真焼きと言われる焼き方と対比されています。



【写真 1：2 面空撮写真】



【写真 2：井戸の断ち割り調査】



【写真 3：洗浄して整理中の出土遺物】

※白い紙のカードはユボと呼ばれる、出土した場所や日付等の情報が記載されています。

2月10日更新 『下山発掘だより』第9号(2月)を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

2月に入り、今年度の下山地区での現地調査はほぼ終了しました。現在は出土遺物や測量図面の整理作業に取り組んでいます。

『下山発掘だより』第9号を以下に掲載しました。

引地上切 B 遺跡・引地上切 C 遺跡・丸山 D 遺跡・栗狭間遺跡の簡単な調査速報をまとめましたので、ご覧ください。



【『下山発掘だより』第9号(2月)】

2月3日更新 オンボ B 遺跡の調査が終了しました。

調査研究課の三輪です。

昨年12月の末にオンボ B 遺跡の調査が終了しました。

オンボ B 遺跡は上下2段からなる遺跡で、中世(鎌倉+室町時代)の遺構・遺物が数多くみつかりました。特に上段から下段へと下りはじめる斜面の部分から遺構が増えはじめ、下の段では足の踏み場に困るほどの遺構を検出しました(写真1)。

上段部はあまり遺構が多くありません。しかし、小さな谷が複数ありメインとなる中世の遺物のほかに、弥生時代の石器や土器なども出土しています。特徴的な遺構としては、小さな土坑の中からほぼびつたりサイズの山茶碗が完全な形で出土しました(写真2)。掘立柱建物の柱を抜きとる際に、土地の神様を鎮(しず)め祭る地鎮(じちん)のために碗を入れるという話もあるそうですが、近くに並びそうな柱穴はありませんでした。

斜面から下段部にかけて遺構が増え、土坑・溝状遺構・竪穴状遺構、また複数の被熱痕跡などが見つかりました。もともとの下段部は、地層をみると池のように水が溜まったところだったと思われます。そこに土を入れ、平坦面を造り生活に利用したのが中世でした。層の重なりから、造成は

少なくとも2回以上行われたことが分かっています。より古い時代の土からは山茶碗や陶器製の玉などが出土しました。より新しい時代の土からも山茶碗が出土しており、時期差がありそうですがまだ検討できていません。他に鉄製品の破片や鉄滓（てっさい、写真3）、陶器（古瀬戸か）などが出土しており、室町時代まで時期が下る遺物も出土しています。

オンボB遺跡では特に下段部で長期に渡り、人々が活動した痕跡がみられました。鉄滓が出土していることから、鍛冶（かじ）関係の場だったのかもしれない。今後、整理作業などを通して新たな発見があることを期待しています。



【写真1：オンボB遺跡全景】



【写真2：小土坑から出土した山茶碗】



【写真3：炭化物、鉄滓、石製品(?)の出土状況 \*左から順に】

1月29日更新 引地上切C遺跡の1面目の調査が終了しました。

調査研究課の尾崎です。

平成 26 年 11 月から、引地上切（ひきちかみぎり）C 遺跡の調査を行っています。12 月 26 日に空撮【写真 1 参照】を行い、1 面目の調査が終わりましので報告します。

引地上切 C 遺跡は下山田代町下引地に所在し、保久川に注ぐ上沢尻川の右岸に立地します。遺跡は、西から流れ北に開口する谷の緩斜面にあり、調査面積は 1,700 平方メートルです。

第 1 面には、山茶碗等の遺物が出土し、中世から近世の遺構が広がっています。

遺構と遺物が集中した南西部分には、焼土と炭化物を含む土坑やピットが点在し、その南には、L 字型に曲がった溝が検出されました。

これらの遺構からは、被熱痕（ひねつこん、※1）のある 50cm×20cm 弱の平らな石の他、鉄滓（てっさい、※2）【写真 2 参照】、擦痕（さつこん、※3）のある片麻岩が出土しています。

また、何枚か重ねられた状態の山茶碗【写真 3 参照】が出土したピットや、完形の小皿が出土したピット等が注目を集めた他、近くからは、刀子（とうす）の可能性がある鉄製品も出土しました。

その他、井戸状の遺構の周辺からは、中国で製造されていた青磁碗の破片【写真 4】も出土しました。青磁は下山地区の他の遺跡からも出土しています。

どのような人たちの行き交いがあったか、想像を掻き立てられますね。

現在、2 面調査として、中世以前の状況について調査を進めています。

終了次第、またこの場をお借りして、報告します。

※1 被熱痕：強い火力が人工的に及ぼされた痕跡

※2 鉄滓：鍛冶などで鉄を精錬した時に出る滓（かす）

※3 擦痕：刃物等を研いだ跡



【写真 1：空撮写真による全景（上が西）】



【写真 2：鉄滓】



【写真 3：重ねられた状態の山茶碗】



【写真 4：青磁碗の破片】

1月27日更新 『下山発掘だより』第1号から第8号を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査は、平成26年度で4年目となりました。当センターでは、発掘調査に関する調査速報や発掘ごぼれ話などを題材とした『下山発掘だより』を豊田市下山地区及び岡崎市保久地区向けに随時発行してきました。

本年度発行した第1号から第8号までを下記に掲載しましたので、ご覧ください。



【『下山発掘だより』第8号(1月)】

『下山発掘だより』第1号(6月)

- 
[『下山発掘だより』第1号\(6月\) \(ファイル名:26hakkutudayori1201406.pdf サイズ:225.33 KB\)](#)

『下山発掘だより』第1号(6月)

『下山発掘だより』第2号(7月)

- 
[『下山発掘だより』第2号\(7月\) \(ファイル名:26hakkutudayori2201407.pdf サイズ:200.42 KB\)](#)

『下山発掘だより』第2号(7月)

『下山発掘だより』第3号(8月)

-  『下山発掘だより』第3号(8月) (ファイル名:26hakkutudayori3201408.pdf サイズ:211.17 KB)

『下山発掘だより』第3号(8月)

『下山発掘だより』第4号(9月)

-  『下山発掘だより』第4号(9月) (ファイル名:26hakkutudayori4201409.pdf サイズ:229.67 KB)

『下山発掘だより』第4号(9月)

『下山発掘だより』第5号(10月)

-  『下山発掘だより』第5号(10月) (ファイル名:26hakkutudayori5201410.pdf サイズ:208.64 KB)

『下山発掘だより』第5号(10月)

『下山発掘だより』第6号(11月)

-  『下山発掘だより』第6号(11月) (ファイル名:26hakkutudayori6201411.pdf サイズ:239.58 KB)

『下山発掘だより』第6号(11月)

『下山発掘だより』第7号(12月)

-  『下山発掘だより』第7号(12月) (ファイル名:26hakkutudayori7201412.pdf サイズ:248.41 KB)

『下山発掘だより』第7号(12月)

『下山発掘だより』第8号(1月)

-  『下山発掘だより』第8号(1月) (ファイル名:26hakkutudayori8201501.pdf サイズ:235.46 KB)

『下山発掘だより』第8号(1月)

1月15日更新 引地上切A遺跡の調査が終わりました。

調査研究課の鎌木です。

引地上切(ひきちかみぎり)A遺跡は乙川(おとがわ)に注ぐ保久川(ほっきゅうがわ)の支流である上沢尻川(かみさわじりがわ)の右岸に立地します。

地形は南西から北東に下るにつれ、急な斜面から緩やかな斜面地が広がります。

調査面積は2,900平方メートルに及び、7月末から10月末にかけて調査を行い、1面と2面に分けました。



【全景と主要遺構の配置 \*写真右が北東方向になります。】

茶色に細長く変色した部分が自然流路の範囲です。なお、矢印は水流の方向を示しています。

## 1面の調査

主な遺構として、古代の竪穴状(たてあなじょう)の遺構や中世の掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)、井戸などが検出されました。

古代の竪穴状の遺構は斜面から緩斜面の変換部で検出されました。大部分は後世における地形の改変で失われていましたが、遺構からは古代の灰軸陶器(かいゆうとうき)が多く出土しています。

中世の掘立柱建物は古代の竪穴状の遺構から少し下がった緩斜面地で確認されました。規模は柱穴が縦3つ、横4つの二間三間ある建物になります。一部の柱穴からは鎌倉時代に生産された常滑焼(とこなめやき)の甕の破片が出土しています。周辺には多くの柱穴が検出されましたが、建物として確認できたのはこの1棟のみでした。また、井戸1基が開口部付近で検出され、山茶碗の破片が数点出土しました。この井戸は素掘りですが、底には複数の石が沈められていました。この他には焼土を伴った土坑も検出されています。



【掘立柱建物(中世)】

各柱穴の間隔は1.5mほどになります。柱穴の深さは102SPが20cm、それ以外が60~70cmとしっかりと掘り込んでいました。どのような用途の建物が建っていたのでしょうか？

## 2面の調査

調査区を南北に分断するように東流した自然流路の掘削が主な調査となりました。自然流路は全景写真で茶色に変色したところですが、その他には木枠を伴う井戸や素掘りの井戸も検出されました。

自然流路は大きく上層と下層に分かれています。下層からは古代の灰軸陶器が出土し、中には墨書された碗や皿も確認されました。上層の遺物は鎌倉時代の山茶碗が多く占めますが、青磁や鉄製品、藪(ふいご)の羽口(はぐち)なども一緒に出土しました。流路の最上層は古代から中世の遺物に混じって、弥生時代の石畿が1点確認されています。



【自然流路の掘削状況】

自然流路の中は小型の重機が入るほどの規模があります。



【鉄製品(刀子?)】

先端部は欠けていますが、写真の左側が切先(きっさき)と思われます。右側は中心部に比べて、やや細長くなります。おそらく、茎(なかご)と呼ばれる部分で柄(つか)にさしていたものと考えられます。

### おわりに

引地上切 A 遺跡では、弥生時代、古代、中世の遺構や遺物を確認することができました。

その中でも、中世の前半頃には人々が当地で顕著に活動していたようです。この活動として現在考えられるのは、焼土を伴った土坑や竈(ふいご)の破片が確認されていることから鍛冶(かじ)をこの遺跡か周辺で行っていた可能性があげられます。

今後は近辺に所在する引地上切 B・C 遺跡が調査されるので、合わせて検討を行っていく予定です。

### 9月17日(水曜日)更新 和倉遺跡の調査が終わりました。

調査研究課の三輪です。

**和倉遺跡**(わぐらいせき)は愛知県豊田市下山代町内に位置しています。5月の末から8月中頃まで約2,950平方メートルの調査を行いました。調査区としての**和倉遺跡**は「Y」字の形状をしています。北西(左上)部分から南へは下り斜面、北東(右上)部分は東西の高まりに挟まれた谷状の地形をしており、「Y」字の中央交点部分から北東へと傾斜する地形です。主な**遺構**は**炭焼窯**(近代?)(\*1)と、**落とし穴**(時期不明)(\*2)です。**遺物**は**灰釉陶器**(かいゆうとうぎ)、石材の破片、**縄文土器**などが出土しました。



和倉遺跡全景

調査区東側では近代頃の**炭焼窯**4基が南北に連なってみつかりました。南の炭焼窯を壊しつつ北へ北へと新しい炭焼窯をつくったものと思われます。もっとも古いものは3m弱の円形の穴だけを残しており、他3基と同じく炭焼窯だと想像していますが、具体的な使い方はわかっていません。

2番目に古い炭焼窯の脇からは入れ物に入った**キセル**(\*3)が出土しました。炭を焼きながら近くで一服していたのでしょうか。





左：炭焼窯

右：キセル筒（中にキセル有）

調査区北西部からは縄文土器が出土しました。しかし、全体的に遺物は極めて少なく、人が生活していた確証は得られませんでした。代わりに、調査区中央周辺では直径1m前後の土坑が7基みついています。明確な時期は分かりませんが、うち1基は縄文土器が出土した層より下の層を掘り込んだ遺構でした。これらは底部に小さな穴があり、杭の痕と考えられることから、動物を獲るための落とし穴ではないかと考えています。



左：縄文土器

右：落とし穴

和倉遺跡のすぐそばには、（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 [愛知県埋蔵文化財センター](#)が調査をしている蔵平遺跡があります。場所は目と鼻の先ですが、こちらでは古代の竪穴建物複数基みついています。和倉遺跡は「狩場」としての性格が強い遺跡でしたが、蔵平遺跡は「生活の場」としての性格が強く、利用のされ方に大きな違いがみられるようです。

- \*1 炭焼窯：炭を作るための窯のこと。
- \*2 落とし穴：「陥穴」とも書き動物を獲るために掘った穴のこと。底部に杭の痕跡が残っている場合が多くみられる。和倉遺跡では落とし穴と想定される遺構7基のうち6基で、1～2つの杭の痕跡を確認している。
- \*3 キセル（煙管）：喫煙（きつえん）するための道具。刻んだ煙草（たばこ）の葉を詰めて吸うもの。

9月2日（火曜日）更新 孫田遺跡の調査が終わりました。

調査研究課の鎌木です。

8月上旬に孫田遺跡の2面の調査が終わりましたので、報告します。今回は縄文時代と1面の補足として、2つの拡張区を設けた調査を行いました。

以前に紹介した平安時代の遺構面より80cmほど掘下げを行い、3本の旧流路が検出されました（写真1）。流路は写真で黒い土が筋状になっているところです。この流路3の直上で押型文（※1）といわれる縄文時代早期の土器の欠片がまとまった状態で出土しています（写真2）。残念ながら、縄文時代の遺構は検出できませんでした。

水色で囲った拡張区1は、以前に紹介した緑軸陶器（りよくゆうとうき）などを含んでいる層がさらに広がることを想定して設定したものです。今回も200点近い灰軸陶器（かいゆうとうき）や緑軸陶器の碗や皿、壺などが出土しました。拡張区付近は窪地状になっていることから、土砂と一緒に流入した遺物がここに集まっているようです。

同じく拡張区2は、竪穴建物はまだあるか？関連する遺構があるか？を探るために設定したものです。流路が検出されましたが、遺物を含まないことから時期や関連遺構かどうかは不明です。



写真1 調査区全景写真



写真2 縄文土器（押型文）

孫田遺跡の発掘調査はこれで終了ですが、今年度行う丸山D遺跡は写真の右上に位置し、孫田遺跡のある斜面のトップにあたります。孫田遺跡は上から流れてきた遺物が多く出土しました。竪穴建物遺構は調査区の斜面部にあります。もしかすると、丸山D遺跡では関連する遺構が見つかるかもしれませんね。

※1 押型文（おしがたもん）

縄文時代早期の土器にみられる文様の一つ。山形・格子目などの彫刻を施した棒を土器面につけて転がしたもの。

7月30日（水曜日）更新 孫田遺跡の1面目の調査が終わりました。

調査研究課の鐸木です。

6月27日に孫田(まごた)遺跡の空撮を行い、1面の調査が終わりました。

孫田遺跡は豊田市下山田代町に位置し、郡界川に注ぐ沖川の支流の最深部が調査地です。事前調査では縄文時代、平安時代および江戸時代の遺物や遺構が確認され、調査を行うことになりました。

1面における調査では、大きく分けて平安時代の竪穴建物および土坑、江戸時代の溝、近現代の炭焼窯の3つの時代の遺構を検出しました。

平安時代の竪穴建物は斜面部にあり、規模が約2.5m×3.5mの長方形です。時期は9世紀後半～10世紀前半であることが出土した遺物から推測されます。竪穴建物からは石組みの炉が検出され、灰軸(かいゆう)陶器の碗、皿や土師器の壺も出土しています。

竪穴建物から20mほど北東に離れた場所では同時期の土坑群が検出されています。その中には灰軸陶器の碗の裏に、おそらく「宇」と墨書きされたものが出土しています。その他、遺構には伴わないものの緑釉(りよくゆう)陶器や灰軸陶器の壺の破片が出土しています。



平安時代の竪穴建物検出状況



墨書土器

近世の溝は調査区の平地と斜面の間を地形に沿うように巡っています。水が流れていた痕跡や急須の注ぎ口の破片も確認されました。

近現代の炭焼窯は10m四方の狭い範囲で、煙道と焚口をもつ炭焼窯を5基検出しました。焼成室と煙道部を仕切って熱効率を高めるための石組み付の窯や、この炭焼窯の下からさらに時期が古く規模の小さな炭焼窯も検出しました。

2面では事前調査で確認された縄文時代の世界が待っているようです。

**竪穴建物**：地面を掘り窪(くぼ)めた中に、柱を建て、上にアシなどの植物で屋根を葺(ふ)いた建物。

## 6月18日(水曜日)更新 松下遺跡の調査が始まりました。

調査研究課の三輪です。

5月の末から松下遺跡(まつしたいせき)の調査が始まりました。松下遺跡は愛知県岡崎市外山(そとやま)町に位置し、今回は約400平方メートルを発掘しています(写真1)。ちょうど山の裾でゆるやかな斜面になっており、調査区東側を小さな沢が流れています。

現在は、現代の地表をはがし、遺構を検出し、遺構の掘削作業にはいっています。松下遺跡では様々な遺構が検出されました。調査区西側ではピットと呼ばれる小さな穴が大量に見つかり、調査区東側では溝が検出されています。西側のピットのうちいくつかは、列として並ぶものもあり、柵列(\*1)だったのではないかと考えています(写真2)。

松下遺跡では、中世の山茶碗（やまぢゃわん）をはじめ、近世の陶器、近現代の遺物まで幅広い年代で出土しています。このことから、大量に見された遺構が一体いつの時期のものであったのか特定することができていません。

松下遺跡の調査は6月の末頃まで続きます。遺跡の時期や性格について、今後さらなる検討を行っていきたいと思います。



写真1 松下遺跡全景



写真2 棚列（柱部分、茶色の縦棒）のイメージ

\*1 棚列（さくれつ）：今回の場合、棚が建っていたと思われる並びになる柱穴のこと。

#### 6月3日（火曜日）更新 北野田遺跡の調査を行いました。

調査研究課の三輪です。

北野田遺跡（きたのだいせき）は、愛知県豊田市蕨木（かぶらぎ）町内に位置しています。この場所は、以前の踏査（\*1）で、多くの遺物（\*2）を拾うことができました。現在は遺跡の有無とその範囲を確定するために範囲確認調査（\*3）を行っています。

調査範囲北西の平場から、山茶碗（\*4）の破片と遺構（\*5）を確認することができました。この結果から、周辺に遺跡が広がることを想定して、5月末頃まで調査を続行していく予定です。



トレンチ 02 の遺構

- \*1 踏査（とうさ）：今回の場合、現地を歩いて遺跡の痕跡や遺物がないかを調査すること。
- \*2 遺物（いぶつ）：昔の人が残した生活に関わる物。（土器や石器など）
- \*3 範囲確認調査（はんいかくにんちょうさ）：本格的な調査に向けて、遺跡の範囲を確定するために行う調査のこと。
- \*4 山茶碗（やまぢゃわん）：愛知県ではよく出土している、中世の無軸の陶器。
- \*5 遺構（いこう）：昔の人が残した生活の跡。（柱穴や井戸跡など）

#### 6月3日（火曜日）更新 昨年度の日面（ひよも）遺跡調査の最終報告です。

調査研究課の三輪です。

昨年度の2月末をもって日面遺跡の調査が終了しましたので、最終報告をさせていただきます。

日面遺跡では弥生～古墳時代を除く、縄文時代～近世の遺構・遺物を検出しています。下山の他の遺跡では古代の遺構・遺物が多いのに対し、日面遺跡では中世のものが多いことが特徴として挙げられます。

A区では縄文時代、中世、近世以降の遺構・遺物が見つかっています。縄文時代の遺構は検出されませんでしたが、縄文土器の破片や石器が出土しました。縄文時代の遺物を含む土や地山面を削るかたちで中世以降につくられた平坦面が複数見つかりました。また、時期不明の落とし穴も検出されました。

B区では主に中世、近世以降の遺構・遺物が見つかっています。B区でも土を削り谷側へ押し出すことで平坦面をつくっていました。こうして造成された平坦面の中には特に広いものが1カ所あり、ここを中心に土地を利用していたことがわかりました。中世には用途不明の小土坑群、近世以降では井戸などの遺構が検出されました。

C区では近世以降に造成されたと思われる棚田状の耕作地跡とこれに伴う石垣が検出されました。また、耕作土を除去した面からは地面を隅丸方形に掘りこみ、火を焚いた跡と焼けた骨片が見つかっています。この遺構については火葬施設の可能性も考慮しつつ、現在検討中です。

D区では、縄文時代の遺物が少しと中世以降、近代頃までの遺構・遺物が見つかっています。この地点でも江戸時代後期以降に平坦面の造成が行われていたようです。地表面には礎石や井戸などが残り、礎石の配列等から宗教的建造物と考えられる建物があったことがうかがわれました。

最後に調査を行ったE区（写真1）はB区の北に位置します。ほとんどが斜面ですが、ほかの区と同様にいくつかの平坦面がつくられています。土坑や溝が検出されていますが、遺物が少ないことから時期ははっきりしていません。

発掘調査終了後、B区に昔住んでらっしゃった方のご子孫が日面遺跡まで見学にいらっしゃいました。今年度も、様々な方たちに興味を持っていただけるよう、調査の成果を報告していきたいと考えています。



写真1 E区 調査状況(2月25日)

## 5月9日(金曜日)更新 豊田・岡崎地区研究開発施設用地内遺跡の調査について

調査研究課の伊奈です。

今年度も豊田・岡崎地区研究開発施設用地内遺跡の発掘調査が5月半ばから始まります。豊田市下山地区(一部岡崎市額田地区を含む)に展開する複数の遺跡を調査していきますが、今年度は松下遺跡(岡崎市外山町)、北野田遺跡(豊田市黒木町)、和倉遺跡(田折町)、丸山B遺跡(田折町)、丸山C遺跡(田折町)、丸山D遺跡(田折町)、孫田遺跡(下山田代町)、引地上切A遺跡(下山田代町)、引地上切B遺跡(下山田代町)、引地上切C遺跡(下山田代町)、オンボA遺跡(下山田代町)、オンボB遺跡(下山田代町)、オンボC遺跡(下山田代町)の調査が行われています。(公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターは蔵平遺跡(豊田市下山田代町)、栗狭間遺跡(下山田代町)を調査します。)

今後、このページを使って、当センターが担当する遺跡の発掘状況を順次紹介していきます。

### 豊田・岡崎地区研究開発施設用地内遺跡の位置



※ ( )内の遺跡は(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが担当